

どおして布巾ふきんよりそつと取出とぎだすべし、さて蒸籠せいろうに入いれて十分間ふんかんほどむしてよし。

茶巾ちゆきんさつまいも

是これ右みぎに同じ様ようなり、さつまいもを皮かわをむきて二分位にぶぶんに切きても、又は丸まるのまゝむしても、切きてする方は切きて水みづに入いれて、よくさらし、水みづをかへおき鍋なべに湯ゆを煮にて、入いれて五分余ごぶんあまりほど湯ゆで、ゆたりたらばざるへ上あがて湯ゆを切きて、次つぎにうらごしするなり、又またひすかたは三十分ほどむして、皮かわをむきて、切きて馬尾篩すいのみにてうらごし、布巾ふきんに包つみて形かたちをつくるなりさつまいも四十匁しじゅうもんめに砂糖とうとう十匁じゅうもんめのわりにてよし、但水たみづ分ぶん多おほさいもは六十匁ろくじゅうもんめ以上いじょうになり、水みづ分ぶんなさいもなる時は三十匁さんじゅうもんめにて同おなしかさなれば其そのわり合あひは能よく々ことろ試しみて知るべし。

看護法（前々號の續）

醫學士 長瀬復三郎

子供こどもの外部ぐわいぶはさう云ふものです精神せいしんにしても精神せいしん上の病氣びやうきのある子供こどもならば元來がんらい五官ごくわんの發育はついくと子供こどもの精神せいしんの發育はついくは伴ともなひて行かねばならぬものですから五官ごくわんの働はたらきが完備くわんびして居るや否いなと云ふ事を見るは子供こどもの精神せいしんの發育はついく如何いかんを見るに必要ひつような事である、學齡がくれいに達たつした子供こどもならば絶えず身体しんたいを動かして居て人ひとと一緒に遊あそぶ事も好きすであり、自分の判わからぬ事の事物じぶつをば知りたいたいと云ふ疑うたがひの念ねんがあるとか云ふやうな事が子供こどもの氣象きしやうである、其子供こどもが外見ぐわいけん上じやうさう著ししく變化へんくわはなくても皆みなと遊あそぶ事が嫌きらいで部屋へやの隅すみにスクンで居りたいとか身体からだも餘あまり動うごさず倦意けんいの状態じやうたいがあれば即ち其子供こどもは精神的せいしんてきに何か不愉快ふゆくわいな事があると云ふ事が推察すいさつが出来る、

日本の學齡六歳になつて學校にやると云ふ事は五官の機能なり精神の機能もそれに伴ふて來る時機を待つて教育を始め、五歳未満の子供には重き課業を與へても覺えられもせず、唯子供の腦を勞らすに止まつて居る、今日はドウ云ふ有様になつて居るか知らぬが私共の小學校の時代を考へて見れば随分年齢に不當の課業を與へて休息の時間も少なく、日本の習慣として女の子供は歸つてから三味線とか踊とかを習ひにやるとか、琴を習ひに遣るとか、東京などには殊に此の風習が多いことは愉快でもない、さう云ふ事を教へに遣るは子供に不當の事かと思ひますが、さう云ふ事がありますから子供の朝の課業と午後の課業に子供の精神が何の位勞れて居るか、健全なる身体に健全なる精神が宿ると云ふ事が言はるゝならば又精神が不

健全であつたなれば其子供は不健康の基礎になると云ふ事が言はるゝでないかと思ふ、精神を疲勞させて置くは神經衰弱とか、習慣性の頭痛とか云ふものの土臺となり教育の不當な所から來るものが多く故に朝の課業と午後の課業に子供の五官の働きに差違があるか、午後は遲鈍になつて居らぬかと云ふ事を調ぶれば面白い事であらうと思ふ今日は總論にして置きましたして營養法はどうとか、牛乳或ミルクはどう云ふ風に薄めるとか云ふ事がありすがそれは措きまして、先づ大体だけ申ます、私の話は内科的の病氣でありますから、それに附け加へて外科的の病氣は急の療法として打撲した時又は、止血療法とか云ふ事をお話しをし又眼科の病氣は子供にはトラホームなどが多いがこれはトラムーラとかこれは結膜炎とか云ふ事は醫

者の鑑別する所であるから、一般の注意にどうも學校で重みに注意せねばならぬは傳染病呼吸器の病氣、近視眼とか脊髓の曲つて居る事とか云ふか重でござりますからさう云ふ事を先に御話したが宜いと思ふ、皆さんさう云ふ事に就て他に御望みがあれば問題が出来て御話を致します、餘り長く御話を致しました、(つゞく)

涎掛

岡本 ちか

幼児生れ出で、より二三歳位までは絶えず涎を出す故に下顎喉頭のあたりいつも濕ひ居り甚だしきところはたられることさへありて着物なども常にぬれ不潔となること多し。されば衛生上、經濟上何れよりも幼児には涎掛をなさしむること肝要な

り従来用ひ來りしものは、其地質の撰び方縫方共に粧飾をキとし、体裁はよろしけれど、洗濯に適せざるもの多かり。今左に最も簡短なる涎掛の裁方、縫方につき二三を記すべし。又其地質はキヤラコ或はフランネル等の如き度々洗濯なし得るものを可とす。

一、縫方

先づ廻りに着く所のギヤダを作り置く、即ち其切裁目なれば一寸裁切、耳ならば八分裁切位の幅にて、長さは其廻りの一倍半以上二倍位までの長さに裁ち置き、之を廻り丈に縫ひつめて「ギヤダ」となす。次に表を「キヤラコ」などになす時は、晒木綿或は綿フランネルなどを心となし、先づ表にとちつけ置き、次にギヤダを表と裏との間にはさみ、中より小さく縫ひ、表に